

「湖東通川崎村」256石余と記載（秋田家文書）。鹿島神社境内に貞和2年銘、貝保に同時期の板碑が各1基現存。

〔近世〕川崎村。江戸期～明治22年の村名。秋田郡のうち。秋田藩領。中世末期の八幡林村を含み、近世村落を編成。当初は秋田旧臣中川宮内、次いで藩重臣戸村十太夫が当村開発の指紙を得、馬場目川の旧河道を利用して用水を完成。寛永5年から真崎季富が当村開発の指紙を得て開発を継承（真崎氏家譜など）。「正保国絵図」では188石余、「元禄七郡絵図」では158石余と図示。この間の天和4年「黒印高帳」では村高247石余・当高239石余。かなり石高に変動がみられる。「享保黒印高帳」では村高226石余・当高217石余（うち本領134・本田並65・新田18）、「寛政村附帳」では当高214石余（ほとんど給分）と認定。「天保郷帳」は217石余。枝郷に上川崎（八幡村）・下川崎の2か村を擁し、戸数は「享保郡邑記」で16軒、「秋田風土記」で24軒。親郷一日市村の寄郷である。川欠による災害に悩まされたという（秋田風土記）。北方小倉村の小倉山のほか、東方の中津又村中津又山に草飼入会し、天保元年には当村（当高208石余）戸数26軒が鉦8挺に限り山役銀2匁余を支払って中津又山に入山（運上山図/五城目町史）。村鎮守鹿島神社のほか、阿弥陀堂・神明社がある。鹿島講は最近まで存続。明治11年南秋田郡の村として戸長役場を一日市村に置く9か村と連合。同22年南秋田郡面瀧村の大字となる。

〔近代〕川崎。①明治22年～現在の八郎瀧町の大字名。はじめ面瀧村、昭和31年からは八郎瀧町の大字となる。②昭和33年～現在の五城目町かわさき

〈地誌編〉八郎瀧町 川崎 〒018-16

〔成立〕昭和31年9月30日

〔直前〕面瀧村大字川崎

〔世帯〕81〔人口〕401

町の南東部。農村地帯。東は五城目町に接する。町境を馬場目川が西流。県道秋田-八郎瀧線が中央を東西に貫通。鹿島神社・湖東病院・東北電力八

郎瀧変電所がある。かつて一日市と五城目を結んでいた電車軌道は、現在自転車専用道路として活用。

1980.3出版 角川日本地名大辞典 5 秋田県

かやどや【小池^{かやどや}萱戸屋】

小池部落でも古くから人の住んでいる場所という。付近には板碑が多く散在していた。現在は一カ所に集められ小池板碑群として保存されている。

1998年 千田平三郎談

からまつ【唐松^{からまつ}神社】

唐松 安産の神様とされる御前柳^{ごぜんやなぎ}明神とともに、唐松^{からまつ}様が今でも祀られている。

作者調査

唐松神社

共和町境にある唐松神社は安産の神様として仙北一円はもちろん藩内広範囲の信仰を受けていた。参道に天然記念物の杉並木を持つ現在の社殿は、延寶8年（1680）に藩主佐竹義処が平地下に移転させたものであるとの伝承を伴うほど特異の位置にある。

1989年改訂版新野直吉^{なおよし}著 秋田の歴史
秋田魁新報社

かわらざき【真坂^{かわらざき}河原崎】

調査中

きやくしよ【木役所跡】

きやくしよ

木役所は、大川村（現五城目町大川）の馬場目川河岸にありました。ここは馬場目川を下ってき